



NEXT 50 INNOVATION

株主・投資家の皆様へ

第59期 年次報告書

(2018.4.1 ●● 2019.3.31)

JCU REPORT

株式会社JCU
証券コード：4975

目で見える連結決算ハイライト（第59期期末）

売上高

24,866 百万円

前期比7.6%増



営業利益

7,072 百万円

前期比1.8%増



経常利益

7,192 百万円

前期比3.2%増



親会社株主に帰属する当期純利益

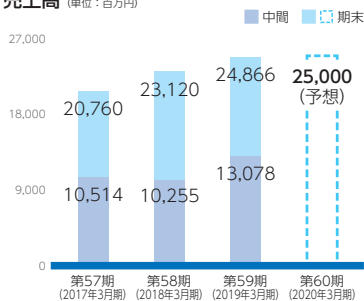
4,963 百万円

前期比1.2%増

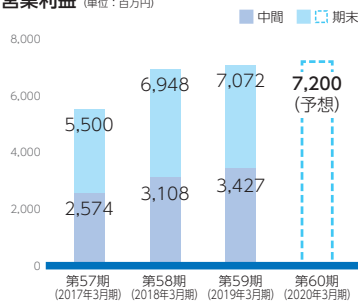


財務ハイライト(連結)

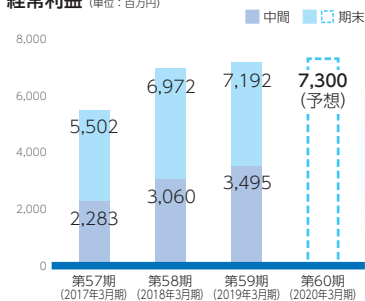
売上高 (単位: 百万円)



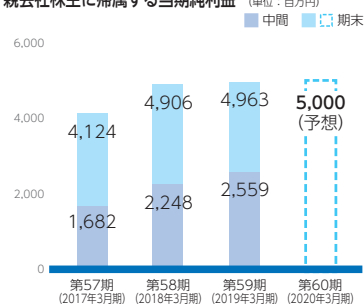
営業利益 (単位: 百万円)



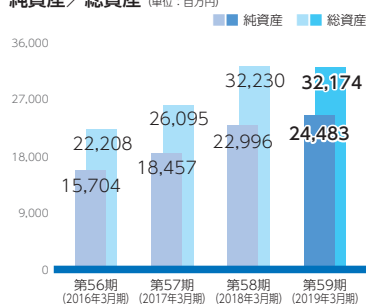
経常利益 (単位: 百万円)



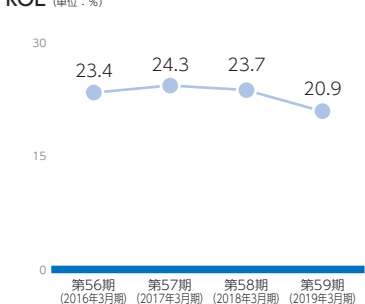
親会社株主に帰属する当期純利益* (単位: 百万円)



純資産／総資産 (単位: 百万円)



ROE (単位: %)



装置事業

19.3%

その他事業

0.1%

セグメント別 業績概況

薬品事業

80.6%

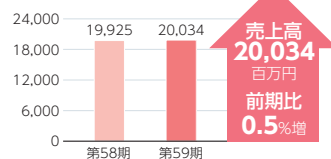
セグメント変更のお知らせ

2019年3月期1Qより、会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「薬品事業」「装置事業」「新規事業」の3事業から、「薬品事業」「装置事業」の2事業とし、報告セグメントに含まれない「その他」を追加いたしました。従来「新規事業」に含めておりました、プラズマ装置、太陽光発電設備等を「装置事業」、スパッタ技術によるカラーリング加工、飲料水及びワイン等の事業を「その他」に含めております。

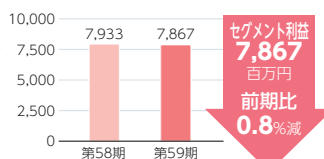
| 2018年3月期末 | | 2019年3月期1Q以降 | |
|-----------|--------------------------|--------------|--|
| 薬品事業 | めっき薬品 エッチング薬品 | 従来どおり | 薬品事業 めっき薬品 エッチング薬品 |
| 装置事業 | めっき装置 付帯設備 | 従来どおり | 装置事業 めっき装置 付帯設備 プラズマ装置 太陽光発電設備 |
| 新規事業 | プラズマ装置 太陽光発電設備 天然水 | 移行 | その他事業 天然水 ワイン |

薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



当社薬品使用例



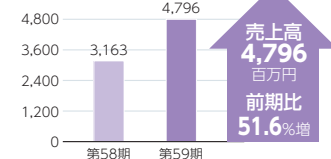
自動車部品



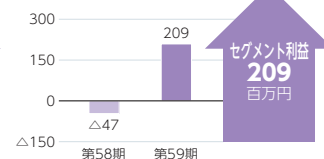
プリント配線板

装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



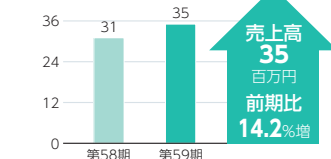
製品一例



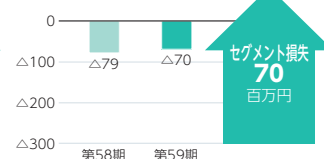
全自動表面処理装置

その他事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)





代表取締役会長 兼 CEO

小澤 恵二

企業理念

表面処理技術から
未来を創造する

株主・投資家の皆様へ

世界経済減速でも

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第59期の業績と第60期の展望、今後の経営方針について、代表取締役会長兼CEO小澤恵二へのインタビュー形式でご報告いたします。

今期は装置の減収を薬品でカバー。
人事制度改革もスタート

◆第59期(2018年4月～2019年3月)も増収増益を達成。
これにより7期連続の増収増益となりました。

第59期は売上高248億66百万円(前年度比7.6%増)、営業利益70億72百万円(同1.8%増)、経常利益71億92百万円(同3.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益49億63百万円(同1.2%増)と増収増益を達成しました。米中の貿易摩擦と、それに伴う関税引き上げによる景気の悪化を受けて期初予想の下方修正を余儀なくされたものの、増収増益を達成でき、関係各位に深く感謝申し上げます。

◆2018年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、それを反映した1株当たり配当金は、2.5円増配の年45円配となりました。前年度の会社設立50周年記念配2.5円がなくなっても9期連続の増配です。さらに第60期(2019年4月～2020年3月)は年47円配と、10期連続の増配を予想しています。

当社は減益の時でも耐えて配当を維持し、増益の時にはできる限り株主の皆様へ還元する方針を貫いており、その方針は変わりません。

◆第60期は8期連続の増収増益を見込んでいます。

第60期は売上高250億円(前期比0.5%増)、営業利益72億円(同1.8%増)、経常利益73億円(同1.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益50億円(同0.7%増)と、

8期連続の増収益、10期連続の増配へ

小幅ながら増収増益を見込んでいます。世界経済は減速しており、先行き不透明感がありますが、中国のスマートフォン向け薬品の販売は2019年3月を底に反転傾向にあり、4月は前年比プラスとなりました。5G(第5世代移動通信システム)移行に伴うインフラ向けプリント配線板の薬品に対する引き合いも目に見えて増えていきます。また、中国の深圳現地法人の営業案件も増えていきます。前年度に好調だった装置事業は売上高が減るものの、薬品が下支えすると見通しています。人事制度では年功序列を事実上廃止して、従業員のやる気を引き出す改革をスタートさせます。

今秋に中国の薬品工場稼働。インド、欧州も着々と。中期経営計画達成へ

◆約30億円を投じ、中国の湖北省仙桃市で2019年10月に稼働する予定の表面処理薬品工場の建設は予定通りですか？

1カ月程ズレ込む可能性はありますが、ほぼ予定通りに建設が進んでいます。当社全体の売上高に占める中国比率は約3分の1を占めており、当社の強みである顧客サポート体制を一層強化します。

◆将来が楽しみな市場であるインドと、自動車向け薬品の拡販を狙う欧州市場はいかがでしょうか？

インド現地法人は2018年に人材を投入し、前年度に初めて売り上げが立ちました。今秋にはデリーで開かれる展示会にも出展予定です。欧州では化学物質を管理するREACH規則が強化されると見ており、現地メーカーとのアライアンスを検討しています。

◆世界初のめっき法によるフレキシブルプリント配線板(FPC)フィルムへの導電処理工業化技術は前年度に初めて受注しました。

香港のコンパス・テクノロジーへの納入を完了し、量産

稼働に向けた最終調整を行っています。FPCは薄く、軽く、自在に曲げられる基板で、次世代スマホ、有機ELディスプレイ、車載用途、身につけて持ち歩くことができるウェアラブル端末や、あらゆるものがネットにつながるIoTを支えるセンサー用途への需要拡大が見込まれています。当社の技術は従来工法に比べ生産コストを半分以上にできますので、受注に弾みをつけていきたいです。

◆2018年4月に設立したワイン製造・販売の全額出資子会社(北海道滝川市)は、2020年に醸造施設を開設する予定です。

土地の最終調整を行っています。葡萄は他所から購入し、醸造を始めます。同時に葡萄苗の植樹も始めます。2023年に黒字転換を果たすとともに、ブランドワインの製造・販売を始め、純国産の高品質ワインの普及を目指します。また、CSR活動では、2017年度より新潟県佐渡市の「トキの森クレジット」を購入して佐渡の森林整備事業に協力しており、2019年は67トン-CO₂分のカーボン・オフセットへの取り組みを行います。

◆3カ年中期経営計画の最終年度となる2021年3月期は売上高265億円、営業利益75億円、純利益57億円を計画しています。

達成できると確信しています。「表面処理技術から未来を創造する」という企業理念に沿って、次世代プリント配線板製造プロセスに求められるめっきおよびエッチング技術、また、難めっき素材であるガラス基板への回路形成など楽しみな技術も出てきています。

株主・投資家の皆様におかれましては、これまで以上のご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

フィルム上へのめっき形成プロセス

進捗報告

(旧：FPC戦略プロジェクト)

ロール to ロール式装置を
受注先へ納入完了！フィルム上への
めっき形成プロセスとは

近年、スマートフォンに代表されるモバイル機器の小型化、高性能化に伴い、薄くて折り曲げ可能なフレキシブル基板(FPC)の需要が高まっています。当社はこのFPCに使用される部材であるフィルムの導電化工程において、フィルムをロール to ロール式装置で搬送し、一度に両面をめっき加工する新しい工法を提案してきました。(第56期年次報告書での報告を参照)

強み

生産性UP

+

大幅コストダウン

+

装置と薬品の
一体販売での
相乗パフォーマンス

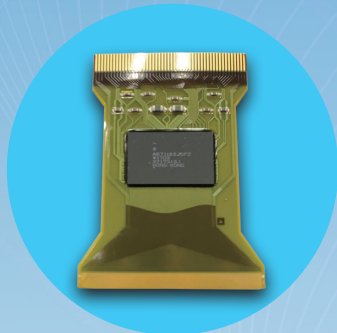
現状

第56期(2015年度)の期初にプロジェクトを立ち上げ、装置の開発と、装置と薬品と合わせた市場展開に力を注いできました。この度、ロール to ロール式装置を1台受注、第59期(2018年度)の期末に無事にお客様の工場へ納入が完了しました。当初の目標を達成したためプロジェクトは解散し、通常の営業活動で販売後のフォローおよび拡販をしています。

FPC
(フレキシブル基板)



最終製品 COF
(チップ・オン・フィルム基板)



拡販の様子(展示会にて)

今後の対応

薬品と合わせて評価テストを行ったあと、量産生産を開始。実績と技術が求められることで、更なるお客様への広がり期待。今後は5G(第5世代移動通信システム)の普及によりそれに対応する各種電子デバイスに使用されるFPCも「高周波対応」、「高精密化」、「伸縮性」などの機能向上が求められ、益々の市場拡大が予想されます。

当社はこれら市場の要求に応えるため、薬品と装置を融合させた強みを生かし、引続き高精細、低コスト化技術を提案していきます。

お客様の工場に 納入した装置



納入先：

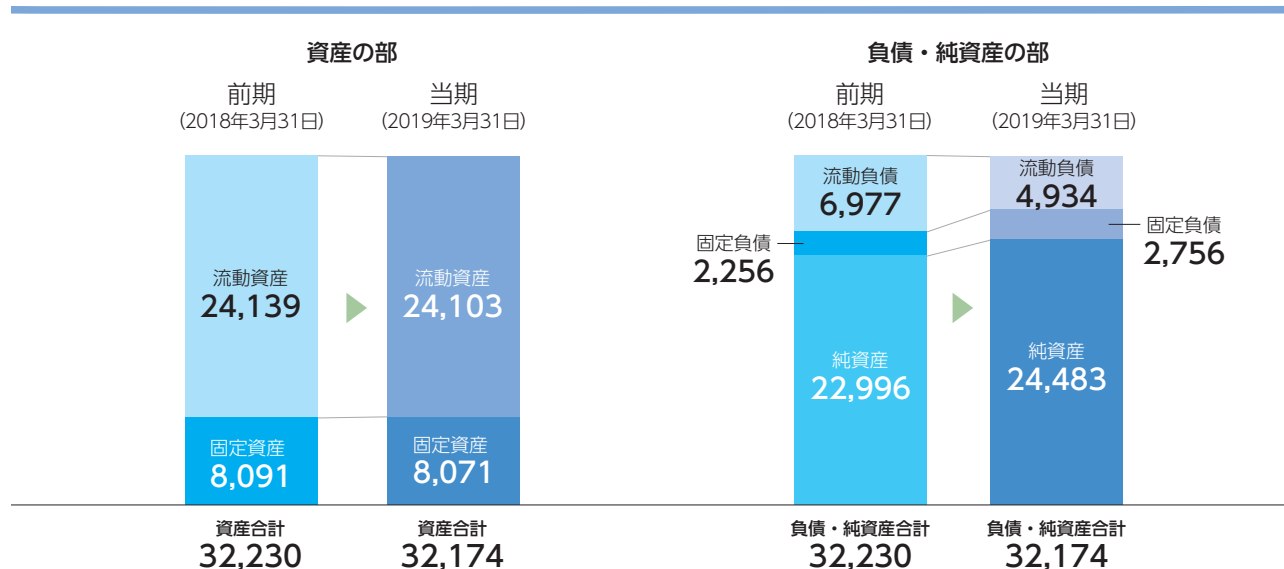


Compass Technology Co. Ltd.

連結財務諸表

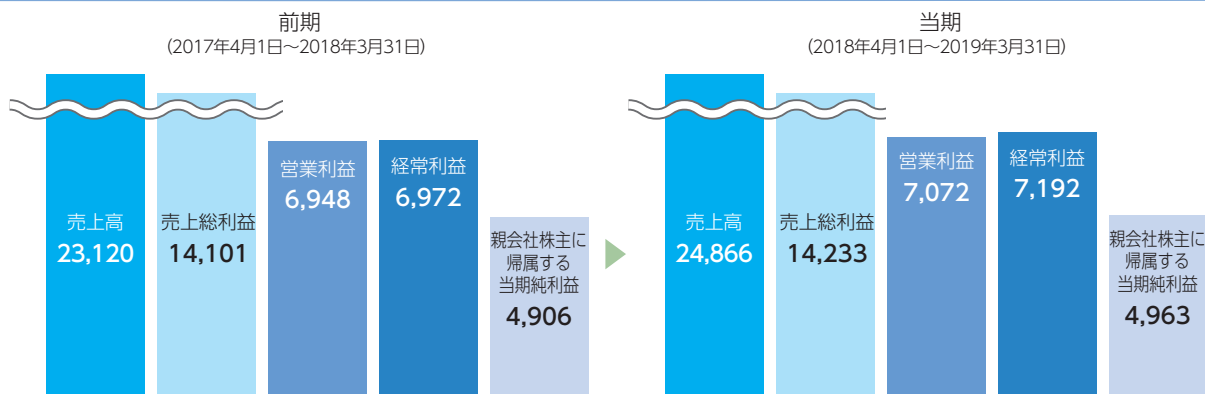
連結貸借対照表

(単位:百万円)



連結損益計算書

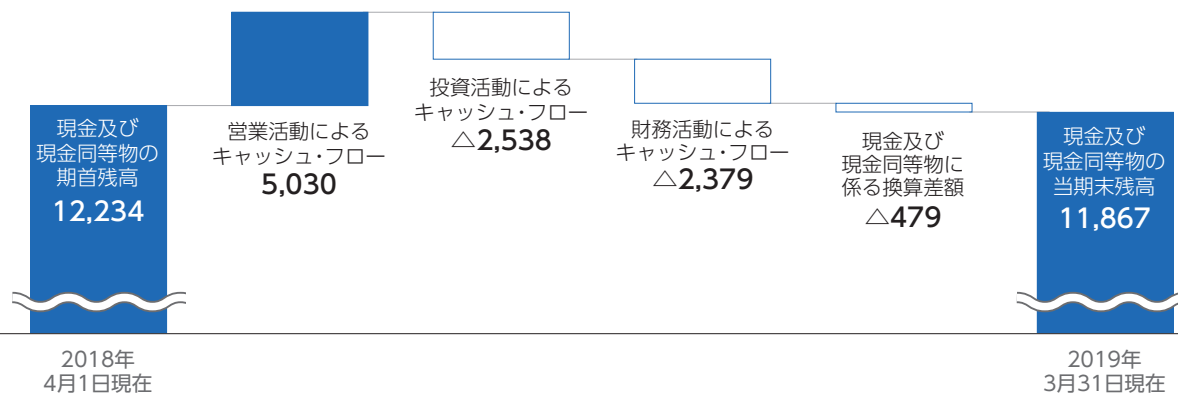
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当期
(2018年4月1日～2019年3月31日)



財務のポイント

● 資産

資産合計は、前連結会計年度末に比べ56百万円(0.2%)減少し、32,174百万円となりました。流動資産は、主に現金及び預金の増加、受取手形及び売掛金の減少、その他の減少により36百万円(0.2%)減少し、24,103百万円となりました。固定資産は、主に有形固定資産の増加、投資有価証券の減少により20百万円(0.3%)減少し、8,071百万円となりました。

● 負債

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,543百万円(16.7%)減少し、7,691百万円となりました。流動負債は、主に支払手形及び買掛金の減少、電子記録債務の減少により2,043百万円(29.3%)減少し、4,934百万円となりました。固定負債は、主に退職給付制度移行に伴う退職給付に係る負債の増加により499百万円(22.1%)増加し、2,756百万円となりました。

● 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,487百万円(6.5%)増加し、24,483百万円となりました。これは主として、自己株式の取得、為替換算調整勘定の減少の一方、利益剰余金の増加によるものであります。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が前年同期と比べ95百万円(1.4%)増加しましたが、売上債権の増加、仕入債務の減少により、営業活動によるキャッシュ・フローは5,030百万円と、前年同期と比べ収入が225百万円(4.3%)の減少となりました。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に定期預金の増加及び有形固定資産の取得による支出が増加したことにより、投資活動によるキャッシュ・フローは△2,538百万円と、前年同期と比べ支出が1,477百万円(139.1%)の増加となりました。

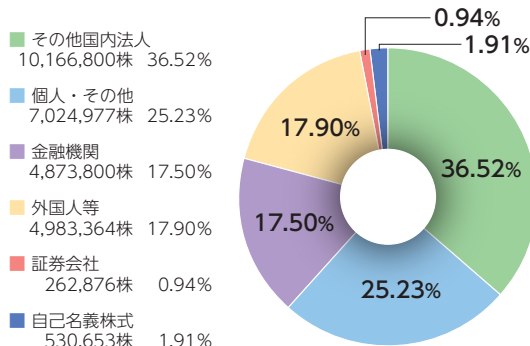
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に自己株式の取得による支出及び配当金の支払額が増加したことにより、財務活動によるキャッシュ・フローは△2,379百万円と、前年同期と比べ支出が1,508百万円(173.2%)の増加となりました。

株式の状況

発行済株式総数…………… 27,842,470株
株主数…………… 11,498名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---------------------------|-----------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,572,400 | 5.75 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,253,800 | 4.59 |
| 日本パーカラージング株式会社 | 908,000 | 3.32 |
| 日本高純度化学株式会社 | 880,000 | 3.22 |
| 荏原実業株式会社 | 800,000 | 2.92 |
| 株式会社スレイ | 800,000 | 2.92 |
| 日本化学産業株式会社 | 744,000 | 2.72 |
| 神谷理研株式会社 | 640,000 | 2.34 |
| 栄電子工業株式会社 | 640,000 | 2.34 |
| TPR株式会社 | 634,400 | 2.32 |

(注)持株比率は自己株式(530,653株)を控除して計算しております。

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
設立 1968年(昭和43年)4月1日
資本金 1,206,723,208円
事業所 ■ 国内

総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店
九州営業所

■ 主要な連結子会社

JCU(上海)貿易有限公司
JCU (THAILAND) CO., LTD.
台湾JCU股份有限公司
JCU KOREA CORPORATION
JCU VIETNAM CORPORATION
JCU(深圳)貿易有限公司
PT. JCU Indonesia
JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
JCU INTERNATIONAL, INC.(アメリカ)
JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.
櫻龍泉(上海)国際貿易有限公司

役員一覧 (2019年6月26日現在)

| | | |
|-------------|----|----|
| 代表取締役社長兼CEO | 小澤 | 惠二 |
| 代表取締役社長兼COO | 村野 | 昌志 |
| 専務取締役専務執行役員 | 谷野 | 木野 |
| 常務取締役常務執行役員 | 大森 | 森久 |
| 常務取締役常務執行役員 | 新隆 | 隆徳 |
| 取締役常務執行役員 | 松本 | 本順 |
| 取締役常務執行役員 | 池側 | 側浩 |
| 社外取締役 | 高田 | 中正 |
| 社外取締役 | 重中 | 敦史 |
| 社外取締役 | 中澤 | 澤隆 |
| 社外取締役 | 市川 | 川充 |
| 社外取締役 | 笠井 | 井成 |
| 社外取締役 | 河藤 | 藤小 |
| 執行役員 | 原 | 原樹 |
| 執行役員 | 鈴木 | 木智 |
| 執行役員 | 今井 | 井豊 |
| 執行役員 | 井上 | 上洋 |
| 執行役員 | 大野 | 野晃 |
| 執行役員 | 富田 | 田則 |
| 執行役員 | 荒明 | 明文 |

従業員数 連結571名(15名) 単体255名(15名)

(注)臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)、年度の平均人員を()外数で記載しております。

株主メモ

| | |
|-----------|---|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 剰余金の配当基準日 | 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月下旬 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| 公告方法 | 電子公告 (https://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。 |

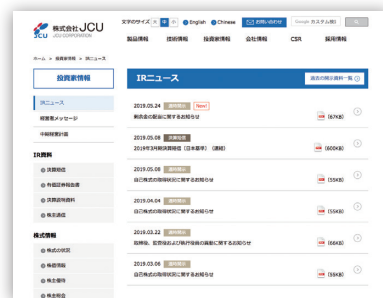
| | 証券会社等に口座をお持ちの場合 | 証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合) |
|---|---|---|
| 郵便物送付先 | | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部 |
| 電話 お問合わせ先 | | フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00) |
| 各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変 更等) | お取引の証券会社等 になります。 | みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットプース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお 取扱できませんのでご了 承ください。 |
| 未払配当金の お支払 | | みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び 全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) *トラストラウンジではお取扱できませんので ご了承ください。 |
| ご注意 | 支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。 | 特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。 |

ホームページをリニューアルしました

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ



<https://www.jcu-i.com/>

株 主 ひ ろ ば

株主優待について

当社の株主優待品は
3月31日現在
単元株以上保有の株主様へ
右記のとおり、「ギフトカタログ」を
お届けいたしております。



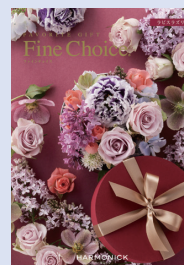
100株以上800株未満
2,500円相当の品
アクアマリン



800株以上4,000株未満
5,000円相当の品
クリスタル



4,000株以上8,000株未満
10,000円相当の品
ダイヤモンド



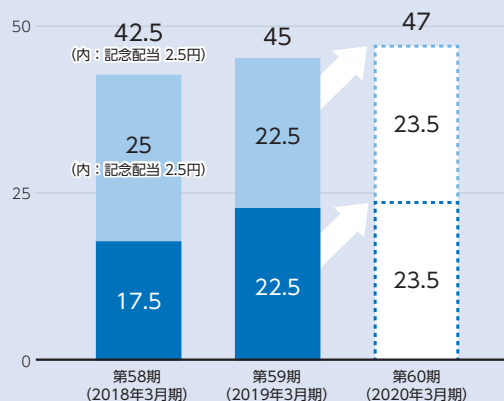
8,000株以上
15,000円相当の品
ラピスラズリ

株主還元について

利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



(注) 2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2018年3月期については、期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算定しております。



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号

TIXTOWER UENO 16階

TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021

<https://www.jcu-i.com/>

